

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2459回★★ 夏山大会 日光白根山・男体山	8月4日(木) ～7日(日) 21:00 竹田駅西口集合	井戸 澄夫 山元 誠一	4日(木) 名神東(南) IC (北陸自動車道)～長岡 IC 5日(金) (関越自動車道) ～沼田 IC～丸沼ロープウ エイ駅ー(ロープウェイ)ー 山頂駅…日光白根山…弥陀 ケ池…山頂駅(ロープウエ イ)ー駐車場～菅沼キャン プ場 6日(土) テント地発…志津 林道…裏登山口…男体山… 戦場ヶ原キャンプ場 7日(日) 日光東照宮, 中禅 寺湖散策 午後(往路帰路)
備考 参加申し込みは、担当者まで必ず連絡をしてください。 費用 30,000円程度 装備 テント泊の用意			

<p>第2460回★★ 上州武尊山 武尊沢</p>	<p>8月12日（金） ～14日（日）</p>	<p>吉田 武</p>	<p>1日目 京都～名神小牧 JC ～中央道諏訪 IC～R 299～ 佐久 IC～上信越道路～藤 岡 JC～関越水上 IC～宝台 樹スキー場 宝台樹スキー 場 テント泊まり 2日目 テント地～林道終点 （自家用車）…登山道45分… 武尊沢遡行（4時間）…武 尊山…手小屋沢避難小屋… 林道終点～R 291～水上 IC ～塩沢石打 IC～清津館 清津館泊まり</p>
<p>備考 参加希望者は担当者まで必ず連絡をしてください。 費用 30,000円 装備 （個人）ヘルメット，安全ベルト，登攀用具，シュラフ （共同）テント，コッヘル，コンロ，炊飯器 宿泊 清津峡温泉「清津館」</p>			
<p>第2461回★ 室生 屏風岩，住塚山，国 見山</p>	<p>9月10日（土） 7：00 竹田駅西口集合</p>	<p>井戸 澄夫</p>	
<p>備考 帰路，温泉入浴予定</p>			
<p>今月の集会 日時 8月9日（火）18：30～ 場所 厚生会館 4F 大教室</p>		<p>企画運営委員会 日時 8月22日（月）18：30～ 場所 厚生会館 4F 六角会議室</p>	



知床半島がこの7月14日，ユネスコの世界自然遺産に登録された。自然遺産としては，日本からは屋久島，白神山地に続いて3件目である。（他に文化遺産が10件ある。）屋久島が高温多湿な亜熱帯性気候のもとで大きく成長した縄文杉に代表される樹林帯，白神山地がブナ原生林に代表される広葉樹林帯が特色であるが，知床半島は流水とヒグマに象徴される寒冷地の豊かな自然と生態系が認められたものである。これで南北に長い日本の多様で豊かな自然がバランスよく世界中に認識されるのでは

ないかと思う。世界遺産も、今年登録された25件を加えると800件を超えることとなった。テレビなどでも報道され、世界遺産を巡るツアーも人気となって、経済効果も大きいようである。特に、まめな性格の日本人にとっては、グローバルスタンダードの名所巡りとして、世界遺産を何ヶ所行ったかが自慢の種になる時代が来そうである。

同じく世界遺産（文化遺産「古都京都の文化財」）をもつ京都では、真夏の風物詩、祇園祭が盛大に行われた。今年は宵山が土曜日、山鉾巡行が日曜日と絶好の日取りとなり、又、珍しく雨が降らなかったこともあり、近年にない人出となった。小生も例年のように四条駅で案内と警戒に出たが、宵山は52万人（警察発表）と確かに多かったが、記憶にある10数年前の70万人という殺人的な人出に比べると、まだゆとりがあるなという感じであった。やはり関西圏の高齢化と経済沈滞が主な要因か。それと最近はカード乗車券が普及して、券売機での混雑が少なくなったのは、我々には救いである。祇園祭が終わると梅雨も明け、いよいよ本格的な夏となる。

今年の夏山大会は、これも世界遺産の日光を代表する男体山と白根山である。（8月4日～7日の予定）若手の参加がないのが残念であるが、豊かな自然と温泉と、そして世界遺産の社寺を満喫してくるとしよう。

（H. 17. 7. 18. 記 S. I）

【第2455回例会】

三 室 山（△1,358m）

和田良一

梅雨入りしてから連日30℃を越える真夏日が続く、この日も朝から強い日差しの中、竹田駅西口を出発し神中道をとばし山崎インターから三室高原へと向かった。

10時に三室高原青少年野外活動センターの駐車場に着き身支度をして目的の山「三室山」へと歩きはじめた。

なだらかな坂道は舗装されてあったりガラガラの道を30分ほど歩いたところで小休止し登山道へと入っていった。道は最初から急登のジグザグで岡田さんをトップに黙々と歩いていたが、途中数回休憩を促がし、この暑さの中水分補給に心がけた。

木々の開けたところからは登り口であるキャンプ場のコテージの赤い屋根や以前登った日名倉山も見えたが、天気が良いすぎたためかすっきりと見えなかった。ジグザグと続く急な道をなおも登りつけ尾根に近づくにつれ大小の岩が立ちはだかり、行く手を少々困難にするところもあり、鎖が取り付けられている岩もあった。

岩の道をしばらく歩くと、やっと尾根に取り付き左の方向へ5分程歩くと約2時間で頂上に辿り着き2等三角点の標石（1,358m）にタッチした。残念なことに標石の一角は欠けていた。

登り口で出会ったグループ10人ほどは既に木陰で昼食を済ませ休んでいたが、木陰らしいところはそこしがなく、そのグループを追いつかたちでわれわれはその場で昼食を摂ることにした。頂上からは氷ノ山や周囲の山々が眺められたが、昨年登った後山は残念ながら木々に遮られ見えなかった。

1時間ほど休憩ののち、復路は足元も軽やかに下山、途中の休憩時冷凍しておいたミカンの缶詰がほどよく解けていて7人が、量が多いとか少ないとかと子どものようにはしゃぎながら口当たりのよいミカンを分け合って食べた。

キャンプ場の駐車場に着いてからも、渡邊さんらが持っている桃の缶詰やゼリーをまた分け合って

食べさせてもらい格別おいしかった。

三室高原を後にし、スキー場もある千種高原のネイチャーランドに行き「千種高原温泉」で疲れと汗を流しさわやかな気分で帰った。

【コースタイム】竹田駅西口 7:00 青少年野外活動センター駐車場 10:00~10:15

登山口 10:45~10:53 休憩（見晴らしのよいところ）11:25~11:40

三室山（2等△1,358m）昼食 12:20~13:15

簡易水道水槽横 14:10~14:25 駐車場 14:45

【参加者】井戸澄夫、岡田茂久、渡邊智生、森本清一、三橋 勉、方山宗子、和田良一

【第2456回例会】

「第2回」京都一周トレイルを歩く

蹴上から北白川

岡田茂久

前回に歩いている筈の蹴上から北白川の区間は、途中で道草をくい過ぎて「第2回」となってしまった。天気予報は雨、朝から今にも降りだしそうな空模様も災いして、3人というなんとも寂しい例会となってしまったが、集合待ちの間になんとも不思議な光景に出くわした。

三条通からインクラインの下を南禅寺へ抜ける「ねじりマンボ」で集合したが、なんと都ホテルの植え込みから何群かのお猿がわらわらと現れ、土曜日の朝ともいえ車の通行も結構多い三条通と岡崎通を、人間様と一緒に信号待ちをして一緒に横断歩道を渡っていくではないか。たまたま、集合場所へと横断歩道を渡ろうとしていたKさんも神妙な顔で一緒に渡っていた。30匹以上はいたろう。

「ねじりマンボ」奇妙な名であるが、覆工レンガが螺旋形に振れながら積まれていることによる。トレイルルートは標識30から「ねじりマンボ」を抜け標識31をインクラインのレールに沿って登る。ここ左手に交通局の前身である旧電気局殉難者の碑があるのをご存知だろうか。今でも毎年、交通局電気関係のOBで構成される会が慰霊祭を行っている。

天津市三保ヶ崎から長等山を潜り、山科、日ノ岡から神明山の下を穿ち蹴上船溜まで8.7kmの琵琶湖疎水。建設当時から天津～京都を結ぶ船便が運行され、急勾配の岡崎動物園前との間を荷物を船に載せたまま上下するケーブルカーがインクラインである。完成当時は船が山に登ると京都市民を驚嘆させた最新設備であった。

今は錆付いたレールの間に旧市電敷石が敷かれ市民の格好の散策路になっている。

琵琶湖疎水的设计者である田辺朔朗博士の銅像を過ぎ、立派な石造土台の石灯笼脇の標識32を左に折れ、疎水に架かる「大神宮橋」を渡り日向神宮の参道に入る。「大神宮橋」から見下す疎水には時に1mを祐に越す草魚が悠然と泳ぐのを見ることがある。

「大神宮橋」を渡ったところの左手が青龍山安養寺、石造の不動明王が有名で、寺伝ではこの上の大日山から盗賊により持ち出された石像が、この地でどうしても動かなくなり仕方なく不動堂を建立し安置したという。右手の谷を慈覚谷とも一切経谷ともいう。慈覚大師が一切経を埋納した故事に由来とする。このあたり桜の名所である。安養寺のすぐ横に入口のある市営墓地に田辺朔朗博士の墓がある。

狭い舗装道路を過ぎ急な坂を登りきると日向神社（ひむかいじんじゃ）である。朝日宮、日岡神明宮とも呼ばれ、元伊勢ともいう。縁結び、方除けの神として崇められ、社殿は伊勢神宮と同じ檜皮葺

きで天照大神はじめ女神を祀る内宮，男神を祀る外宮に天の岩戸までである。10月16日の大祭に奉納されるお神楽「人長の舞」は古典的で風雅である。トレイルルートは神社の前を直進し竹やぶを左に石段を登る。

また，日向神社に参拝し，内宮の左手を折り返すように坂を登ると天の岩戸の前に出る。天の岩戸は10mほどの岩穴だが通り抜けて右の山道を登ると三差路となり，直進すると南禅寺の水路閣の上にてるが，三差路を右に向かうとトレイルルートの標識38，39「七福思案処」にでる。

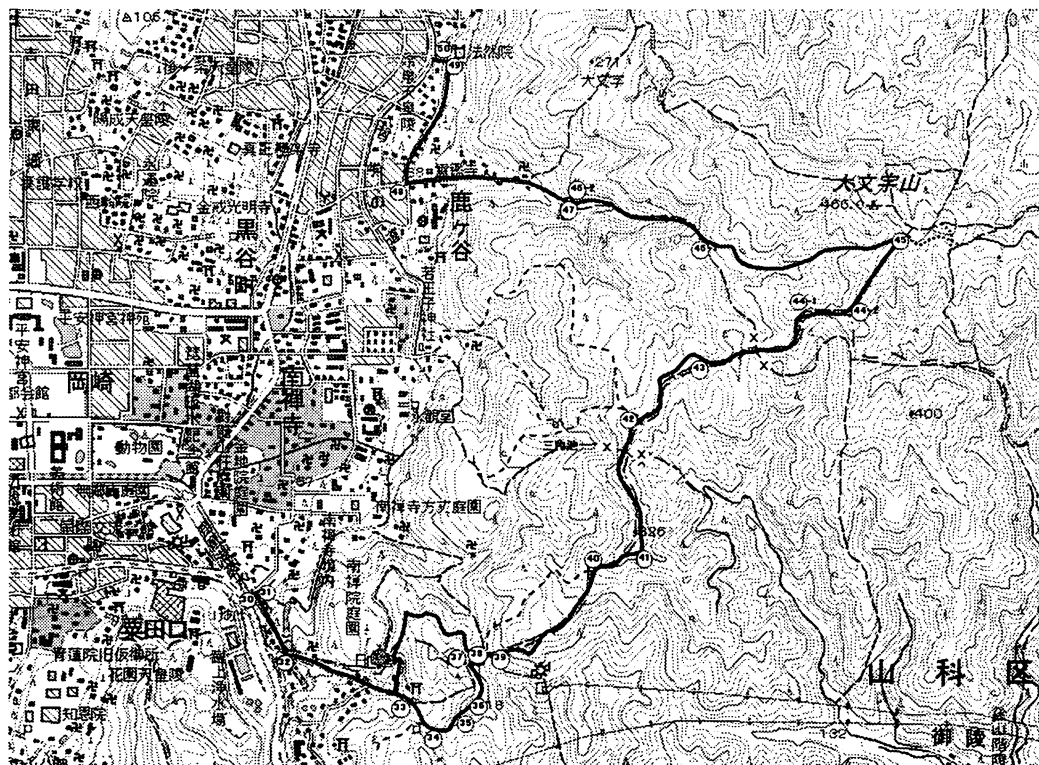
トレイルルートは石段から山道を登りきると標識34にでる。直進する古い踏跡があるが，この道は蹴上の東海道が開かれるまでは山科に抜ける唯一の道であったという。右のフェンスに沿って登ると，木立に囲まれ今は展望も無いが神明山朝日宮の遥拝所がある。

標識34まで引き返し左の急坂を登る。アルペン的なルートで馬の背道とも言うが滑り易い岩稜で特に降りは要注意。標識35，36の直進する踏跡はいずれも山科に抜ける。標識36が東山36峰神明山らしい。

標識37を直進すると東山36峰大日山である。東岩倉山とも称し，西，南，北岩倉山と共に都の鎮護として経を収めた岩倉があったと伝え，山頂に大日如来像があったため大日山と称するというが今は痕跡も残されていない。山頂は確定できない。標識37を右に急坂を下ると標識38，39の「七福思案処」である。

「七福思案処」なんともおめでたい地名だが出所ははっきりしない。ここでルートが7つに別れており行く道を思案したからともいうが，山科側に下ると毘沙門堂に到るから関連があるのかも知れない。見晴は無いが絶好の休憩場所でありゆっくり思案していきたい。

標識39には×印がしてあるが南禅寺へ下る道の左手に小道がある。良く踏まれた道はすぐ終わりで、



荒れた道を行くと右手の谷に古い墓石が散乱しており、軽自動車ほどの岩がいくつも崩れ落ちている。先年の神戸淡路大震災の余波ではないかと思われるが無残な姿である。どうもこれが観勝寺山と呼ばれる地らしく、墓地の上には伝えによる行基座禅石らしきものも残っており供養塔が立っている。墓石はほとんど僧のものだが、**朝臣とかすかに読める貴族の墓も混じっている。少し先には直径10m、深さ5mほどのすり鉢形の大穴があり、伽藍跡らしき平地が広がっている。古い城跡のようにも見えるが、これが伝えによる観勝寺跡ではないだろうか。

観勝寺は弘安・元弘の蒙古襲来の折に亀山上皇が戦勝祈願をしたと伝える由緒ある大寺であったが、応仁の乱でさしも威容を誇った大伽藍も焼亡し衰退したという。伽藍跡らしき平地の上の台地に登ると大日如来の碑と大日如来石像がある。あまり顧みられない隠れた遺跡である。今は大日さんという大日山では無くこの地を指すらしい。南禅寺を眼下に市内の展望が良い。大日如来の碑から忠実に踏跡を東に登るとトレイル標識40にでる。

良く踏まれた本来のトレイルルートは標識40に向かう。途中、大きな岩が門のように立ちふさがりルートはその間を通るが、左の杉林の間を30mほど入ると、ここにも直径7～8m深さ5mほどの大穴が在る。これも不思議な謎の大穴である。

石門から少し登ると山科方面の眺望が開ける良い休憩場所がある。トレイルルートはトレイル標識40を右折するが、左の尾根に入り、すぐに左の踏跡を下れば前述の大日如来の碑に降る。トレイル標識41は直進するが右へ入る道は後山階陵から毘沙門堂門跡をJR山科駅に出る。標識41から標識42までは平坦な道だ。

トレイル本ルートは標識42を右に見て直進するが、標識を左に入れば新島裏、徳富蘇峰などが眠る若王子墓地から若王子神社に到る。少し判り難いがこのルートで最初の分岐を北に入れば、東山36峰若王子山から若王子神社に到る。若王子墓地へのルート途中北側に三角池と称する神秘的な池がある。池畔の踏跡を下れば若王子神社に到る。若王子墓地の南の台地が東山36峰南禅寺山で独秀峰ともいい、若王子墓地の手前の分岐を谷に降りれば駒が滝から南禅寺へと下る。

若王子神社は後白河法皇が遠く紀州熊野詣でをする代わりに勧請されたもので、創建には資材全て土石に到るまで熊野から運ばれたと伝え、那智の滝になぞらえた滝までである。三角池はこの滝の水源である。

トレイル本ルートは標識43の手前の尾根道を右折し、少し下る道で標識は無いが倒木が道を塞いでいるので直進しないよう。標識44-1、標識44-2の分岐ではいずれも右折すると、後山階陵から毘沙門堂門跡をJR山科駅に出る。

標識45が大文字山の四辻である。直進する急坂を登れば大文字山三角点を経て、大文字の火床に出る。左へ山裾をたどり次の分岐を直進すれば池ノ谷地蔵に到り、分岐を右の杉林の中の踏跡を行けば、航空無線発信所の在る如意ヶ岳に到るが、迷い易いので注意。大文字山を東山36峰如意ヶ岳と称するが、本来の如意ヶ岳は京都盆地からは望めない。

トレイルルートは左折し、杉林の談合谷沢筋を楼門の滝へ向かう。少し下った処の右からの小沢沿いの踏跡を少したどれば、美味な湧水があるが隠れた名水である。

標識46-1の下に「俊寛僧都忠誠之碑」が建ち、その下を降りれば幽邃な楼門の滝である。また如意滝とも言うが、平安末期このあたりで三井寺の別院「如意寺」が隆盛を誇っていたが、南北朝時代の戦火により衰亡し、今は古絵図と滝の名に名残が見えるだけで何の痕跡も残されていない。

治承元年(1177)、法勝寺の俊寛僧都はここ鹿ヶ谷の山荘で、大納言藤原成親、平康頼等と平家打倒の密議をしたが発覚し鬼界ヶ島に流された。歌舞伎や浄瑠璃ではつとに有名であるが、何故に「忠誠之碑」なのか碑文も磨り減りよく読めない。

平家打倒の密議を凝らしたところからこの谷を談合谷と呼ぶに至ったと考えられる。碑から苔むした石段を下れば、七曲がりを経たトレイルルートに合流するが、石段は常に湿っており滑り易く特に注意したい。

標識46-2を経て林道との合流地点が標識47である。談合谷が合流する谷を古来「狼谷」といったが、合流地点に高野山から「鹿ヶ谷徳善谷波切不動」が勧請され以来徳善谷と呼ばれている。今は山科四ノ宮にあるが、崇高な西田天香師の一灯園の発祥地である。

急な舗装道路を下れば標識48は谷の御所尼門跡寺院靈鑑寺の角にある。左折すればノートルダム学院を経て哲学の道を若王子神社。

トレイルルートは北に右折し、浄土宗開宗時「承元の法難」の発端となった後鳥羽上皇の女官、鈴虫、松虫の供養等で知られる安楽寺を過ぎ。大文字火床の西麓で、深い樹木に覆われた東山36峰善気山の麓に法然院が静寂なたたずまいを見せる。

数奇屋風の茅葺門、水紋を象る美しい砂壇、新緑と紅葉が映える時季はもとより、四季を通じ山歩き跡の余韻を楽しむには余りにも贅沢である。

標識49で左折、標識50で哲学の道を標識51銀閣寺門前通から銀閣寺道交差点。疎水の北から町並の中を北白川仕伏町標識52に出る。直進すれば山中越えに登るので左折し、標識53日本バプテスト病院進入路を目指す、標識51で雨が強くなり今回は銀閣寺までとした。

2005, 7, 9

【参加者】方山宗子，森本清一，岡田茂久

【部員動静】

黒法師岳と日本塚山

坂井久光

京都山の会の山崎大造氏から久しぶりにさそわれて、山旅に出掛けた。6/17 19:30 JR 宇治駅に集合。京滋自動車道から名神に入り豊橋から国道に入り、新城-東栄町を通り、佐久間町に出て東進して水窪町から水窪ダムへ24時に到着。車泊。18日6時起床6:30出発。6:55~7:00 営林署ゲート前で駐車。水窪川沿いに林道を約6kmを歩いて黒法師岳登山口へ8:56~9:00。此所から急坂登高の開始。樹木の枝尾根を朝の涼しさと曇の日影で順調に高度を稼いで、途中二、三のタルミはあったが、10:00~15標高1360m。11:10~25, 丸盆山との鞍部, 1,900m。黒法師山2,067m一等三角点へ登頂。前回は昭和50年3月22日で、南の山犬の段の山小屋で一泊して積雪1m位の山頂へ。下山して電話したら母が死んで葬式も昨日すんだとの返事で京交山岳部や京岳連や岳友達に大変な御迷惑をおかけしたにがい思い出だ。あの時見られなかった日本で唯一の×印の三角点を実見出来たことであった。三人で万才三唱。記念撮影をして昼食後ゆっくり休憩。12:55~14:00。府道から大崩落の跡がよく見え、コルを経てバラ谷の頭や山犬の段への尾根が見えた。周囲は山笹原や大シラビソの疎林で立枯の木が沢山あった。展望は林の為余りよくないが、山頂は小広く、山崎さんの愛犬も元気づよく登った。

往路下山すると上部はガレ場のジグザグがあり、急峻な尾根でストックを使用して用心して下山。17:00登山口、ゲート18:46~50。水窪ダム19:10。又ダム畔で車泊。6/19 6:00起床 6:45出発。水窪町へ出て北へ走る。最初の左への車道を左折して富山村へ。大嵐駅の橋迄、トンネルを通り峠を越えて約40分のドライブで天竜川を渡って川沿いに下流へ。途中山崎さんが入浴した湯の島温

泉を右に見て橋を渡り南へ走ると国道は2k先で崩れの為前方不通の標示があり、右折して県道を西進して日本塚登山口の中沢キャンプ場へ。山崎さんは此所は標高が低いからもっと高い処の登山口がある筈と、更に西の漆島の南に入る林道（舗装）に入り終点で駐車。8：20～35。

同行の久馬さんの偵察で遊歩道への道があり、それをとってよく手入れされているが、急な登りと平坦な尾根との交互で二回休んで10：00～15で前山のピークへ。未だ山頂は霞んで未だ1k程度で標高差200mはあるとのこと。すぐ100～150m位の急な下り。急な登りを登ると又50m位の急なザイルのある下り。又登り楷子のある瘦尾根の急登で頂上と思うと又ザイルの下り。計ゆるいコルを加えると10回位の上り下りで、1時間30分の休みなしで日本塚山1,107m二等三角点へ。これで吾の日本のついた山を全部愛のお影で登れたが、こんなきびしい遊歩道は此所だけだろう。山頂へ11：45～13：00。昼食休憩してすぐ下の分岐で中沢キャンプ場への道をとって下山した。15：00～35中沢キャンプ場、途中山崎さんの愛犬フクが見えなくなったが、先に駐車場にいたと山崎さんが運よく富山村役人の車をヒッチして駐車場へ行けたので早く戻って、湯の島温泉へ15：35～16：00、入浴してさっぱりして、県道を西へ国道の豊橋へ道に出て東栄町経由豊橋へ。

名神豊橋 I. C 18：45 赤塚口で夕食18～55～19：20。宇治駅21：35～48。で解散。

【部員動静】

美山町の城山

伊 藤 潤 治

美山町の城山403.7mは、コブシ咲きつつじの蕾ほころび展望絶佳であった。

山上に、「丹波『島城』遺構、島城は秦河勝を祖とする川勝氏により、天文年間から天正年間（西暦1500年代）頃に築城されたと伝えられています。遺構は四つの曲輪に分かれています。Ⅰは最も高い所にあり、本丸にあたります。東側には地形にあわせ堅堀や堀切を設け、背後の備えとしています。いわゆる畝状空堀群は、丹波北部や丹後、若狭に共通した特徴で、美山町ではそれらが濃密に分布する地域とみられます。ⅡはⅠから堀切をはさんで西尾根にあり、広い面積を持っています。Ⅲには出入口にあたる虎口が見られます。Ⅳは北側に突き出を尾根にあり、Ⅰからは見えない、市場村（静原）を眼下に見おろすことができます。島城東側を畝状空堀群で仕切り、西端のⅢ・Ⅳを土墨囲みとし、曲輪それぞれの役割分担が明確で、美山町に残る中世城郭の中では構造が最も発達しており、戦国時代の歴史を物語る貴重な遺跡といえます。（宮島地区むらおこし推進委員会）が記してあった。

平成17年4月15日。地形図四ツ谷。

部 員 動 静

目 的 地	月 日	参 加 者	記 事
音羽山, 千頭ヶ岳, 高塚山	6月7日 晴	大槻 雅弘 他1名	京津大谷駅から地下鉄醍醐駅までのコース。結構距離もあり、このコースは近くて楽しいものである。 3等, 2等, 3等の三角点に挨拶して地下鉄で帰る。 登り口の蟬丸神社前にある一等水準点は、京都に2ヶ所ある基準で一見する必要あり。
依遅ヶ尾山	6月19日 晴	〃 他1名	丹後半島の先に、日本海を望む山。地元では登山道が整備され、昔とちがって山頂までいい道がっていた。 帰途、久し振り経ヶ岬を廻り、帰洛した。
金毘羅山	6月26日 晴	〃 他1名	久し振り、岩の感触を楽しみ、Y懸尾根で遊ぶ。昔は若い人達ばかりだったが、おどろいたことに中高年ばかりが目につき、つくづく時代の流れを感じた。
牛松山	7月7日 晴	〃 他1名	何回目かの山であるが、最近では時間もあるので、いろんなことに目が向くようになった。今回はスタートにあたる福性寺の横にある石碑「金毘羅道」の拓本を取ってから登った。この山は三角点と最高点が少し違う所にある。

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
2455	三室山	6月25日	晴	井戸 澄夫	岡田 茂久 渡邊 智生 森本 清一 三橋 勉 方山 宗子 和田 良一	(別稿詳報)
2456	京都一周トレイルコースを歩く 第2回 (蹴上～北白川)	7月9日	雨	岡田 茂久	方山 宗子 森本 清一	(別稿詳報)
2457	尾瀬ヶ原と尾瀬沼	7月15日 ～18日		吉田 武	他6名	(次号報告)
2458	羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳	7月28日 ～31日		吉田 武		都合により中止しました。

雑 報

△△△ 7月の集会

日 時 7月12日(火) 18:30～
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 井戸, 吉田, 大倉, 大槻, 岡田, 坂井, 三橋, 渡辺, 和田, 方山, 堀田
内 容 例会予告, 例会報告, 個人山行, 岳連関係報告ほか

△△△ 6月の企画運営委員会

日 時 6月20日(月) 18:30～
場 所 厚生会館 4F 六角会議室
出席者 井戸, 吉田, 大倉, 三橋, 方山, 堀田
内 容 例会予告, 岳連関係報告, ほか

△△△ 他山岳部の会報（受贈分）

7 月号 木雞, 青嶺, 比良山岳, 京都山岳, 趣味の登山, わっぱ

8 月号 近畿山行, 北山

かもしか2005（敦賀山の会）

△△△ 岳連についてのお知らせ

平成17年9月4日 無雪期指導員研修会および一般講習会

三重県：御在所岳・藤内壁周辺

△△△ おわびと訂正

05 7月号の部報 No. 639はNo. 633の誤りでした。

P9の【個人山行】妙見山で誤植がありました。

9行目 誤：「……河村清・幸村夫妻……」 正：「……河村清・幸枝夫妻……」

10行目 誤：「……標高660m（彦根）……」 正：「……標高660m（広根）……」

第6回 京都自費出版フェア

◆◆ 終戦60周年特集 ◆◆

「語り継ごう学童疎開」

併催：第8回日本自費出版賞入賞作品62点を展示

会場 四条京町家「四条西洞院東入ル北側」

会期 2005年7月31日(日)～8月6日(土)

11：00～21：00（最終日は16：00まで）

8月3日(木)は休館

主催 株式会社 北斗プリント社

協賛 株式会社 ふたば書房

日本自分史センター（愛知県春日井市）

事務局：株式会社 北斗プリント社

TEL：075-791-6125 FAX：075-791-7290

e-mail：gakkai@hokuto-p.co.jp